



葉山ごみっぺらし通信



特集

4つのモデル地区 ごみ減量スタート

町のおびかけに応え、4つの地区がゼロ・ウェイストモデル地区に決定しました。生ごみ処理の普及と、分別収集方法の改善にむけ、地域主導によるごみ減量の挑戦が始まります！

葉山発ゼロ・ウェイスト
楽しくへらすごみ通信
編集 ごみへらし隊 発行 葉山町環境課



葉太：葉山に生まれて8年。好奇心いっぱい小学生。



ムダナク（カダナク）：環境変化をいち早く察知！



ボトル（犬）：拾ったペットボトルがペットボトルの拾いも訓練中。

イトーピア自治会



役員会でモデル地区への応募を協議する中で、地域のアンケートを実施したところ、約8割が賛同を示してくれました。そのうち、生ごみ処理

にすでに熱心に取り組んでいる地域をモデル地区として、取り組みを進めることにしました。まずは生ごみの減量を目指して、処理方法の普及を図ります。

東伏見自治会



東伏見団地はクリーンセンターに近く、煙や臭いの影響を強く受けています。そのためにも、まずは生ごみを少しでも減らし、町の方針であるごみ減量に協力して、ぜひモデル地区に指定してもらいたいということで、会員に呼びかけ、多くの賛同を得ました。役員会でも全会一致で賛同となり、モデル地区に取り組むことになりました。



つつじヶ丘町内会



町のごみゼロ運動に協力することを理事会で決め、3回にわたる住民への調査で過半数の賛同を得たので、モデル地区に応募しました。ゴミ減らし器の配付・据付けについて高齢者宅への支援を行い、コンサルタント的な立場でゴミ減らし器の利用/ノウハウを伝えていきます。「生ゴミは自分の問題である」と認識してもらうよう努力します。

葉山一色台自治会



ごみ減量等推進委員の活動などを通して、資源物を持ち込める「資源小屋」があれば分別がし易いのでは、と思っていました。モデル地区に指定され、話し合いを進める中で、「ボランティアで手伝いますよ」という声も多く、地域のまとまりが良くなってきたように感じます。ごみの減量だけではなく、地域みんなが知り合いになれるようになればいいなと思います。



自治会館の生ごみ処理を解決しました。

生ごみ処理容器「バクテリアdeキエーロ」の使用を開始したイトーピア会館。設置者である「葉山の環境を守る会」の皆川さんに話を聞きました。

Q. キエーロを設置したきっかけは？

A. 毎週、料理クラブが会館で活動しているのですが、その生ごみは当番が家に持ち帰っていました。そこで、会館ですてた生ごみを会館で処理できればと思ったのです。キエーロを設置して、茶殻などちょっとした生ごみも処理できて便利です。

Q. トラブルはありませんか？

A. 生ごみの匂いがしないため、虫や動物も寄ってきません。

Q. 反響はありますか？

A. たとえば料理クラブの人たちは「持って帰らなくてよくなった」と喜んでます。納涼祭の生ごみもここで処理できました。

Q. 読者の方にメッセージをお願いします。

A. 会館でも省エネやごみ減量など、環境に良い取り組みができます。生ごみ処理もそのひとつなので、他の会館でも試されてはどうでしょうか。



イトーピア自治会館の脇に設置されたキエーロ。



私のてづくりエコ生活 ♪ ♪ ♪

ゼロ・ウェイストボランティアスタッフ 宮川さん（堀内）

私の節約手作り生活は、とってもエコです。私は学生時代から40年位？、着るものなど多くを手作りしてきました。最近はいらない布や、新しいけどいらない服などを、捨てるのはもったいないからといってたくさん下さる方もいるので、せっせとリフォームしたり、座布団カバーにしたり、こたつ敷きなどにしたりしています。手作りは、お金がかからなくて、いろいろ考えて工夫するので、楽しいです。ワイシャツはエプロンに、その後は雑巾にと、なんでも長く使い、自分で作ることを心がけています。



←20年以上、台所用石けんは廃油から手作ります。



←ワイシャツは、ネリが汚れただけで他はとてもきれいなので、2枚でエプロン1枚を作ります。(左) 女物のシャツでもエプロンをつくりました。(右) バッグも作りました。



←私の綿70%の上着は長袖だったのですが、暑いので半そでに直しました。

「ごみっぺらし通信」はゼロ・ウェイストのボランティアスタッフによる広報紙です。

「ごみっぺらし通信」は、葉山町が進めるゼロ・ウェイストのボランティアスタッフ（通称「ごみへらし隊」）による町民目線の広報紙です。ただいま10名のメンバーですが、随時参加して下さる方を募集しています。 お問い合わせ先：環境課（876-1111 内線451）